

北海道下川商業高等学校 令和6年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- (1) 基礎学力の定着を図り、自ら学ぶ意欲を育てる。
- (2) 自らを律する心を育て、礼節を重んずる生活習慣の確立を図る。
- (3) 自らを鍛え、健康で豊かな思いやりのある社会人の資質を育てる。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学 校 運 営	・「学校は楽しい」「入学して良かった」という、本質的な質問項目に対する肯定的な回答数が多く、全体的には高評価である。 ・「下川商通信」を読んでいるとの回答は、昨年度より増加している。 ・学校ホームページについて、閲覧数が減少傾向にある。	・更なる地域連携の強化を求める意見が見られた。 ・教員間の連携が希薄になってきている現状を危惧する意見が散見された。 ・SNSを活用した学校PRが必要である。
改 善 方 策	・生徒評価の更なる向上を目指し、「わかる授業」「学習意欲を引き出す評価」「ICTの利活用による授業改善」など、教職員の資質向上のために各種方策を計画、実施していく。 ・「下川商通信」を始め、noteなどの活用により細やかな情報発信を行うことで、保護者や地域住民の学校に対する理解を向上させ、本校の魅力を理解していただくよう努める。	
教 科 指 導	・教科指導については全体的には高評価であるが、「授業における学習意欲の喚起」および校外授業や外部講師による授業に対して否定的な意見が若干見られた。 ・家庭学習について、定着率が低い傾向にある。	・一部授業における指導方法や規律指導について、改善を求める声が出されており、全校的な対応が必要である。 ・ICT利活用について、教員間にばらつきがあることがアンケート結果にも出ており、底上げが必要である。
改 善 方 策	・校内外での研修や地域との連携を充実させ「主体的・対話的で深い学び」の実践を増やすことで、生徒の授業満足度を高める。 ・「指導と評価の一体化」「ICT利活用」など、時代に即した授業技術を積極的に研修し、教科指導力向上や個別学習環境の整備、家庭学習習慣の定着に努める。 ・教員の指導力向上に向け、校内研修の充実や公開授業の積極的活用など、校内での取り組みを更に推進する。	
生 徒 指 導	・挨拶については、各回答ともに高評価となっており、本校商業教育が生徒に浸透していることが見て取れる。 ・「気軽に相談できる先生がいる」「どの先生も同じ方針で生徒指導ができています」に対する否定的回答が生徒、保護者共に多くなっており、改善が急務である。	・校外での挨拶等含めて、全体的には高評価である。 ・本校の生徒指導体制に対して、一部保護者が不安に感じていることが結果から読み取れる。指導の根幹に関わることであり、至急の対策が必要である。
改 善 方 策	・「挨拶・礼法」指導は、商業科単置校として最も力点を置くべき指導項目であることから、授業や日常生活を通じて今後もさらに指導を徹底する。 ・個人面談や学校行事を通じて生徒とのコミュニケーションを密にし、望ましい信頼関係を構築することで、教育相談のより効果的な実施につなげる。 ・生徒指導に関する保護者の意見を念頭に、全体及び個に対応した生徒指導体制の強化を図るため、特に若年層教員に対する個別指導・助言を徹底する。	

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
進路指導	・進路指導に関しては、全般的に高評価である。 ・就業体験やボランティアなど、本校の多様な校外活動が進路に役立っているとの回答が多く見られた。	・進路指導の充実が「進路決定率17年連続100%達成」へと繋がっており、次年度以降も生徒の進路希望実現に向けた努力を期待する。 ・「進路情報の入手」に不満を感じてる保護者層の存在が結果から読み取れることから、その対応が必要である。
改善方策	・「求人票管理システム」の導入による生徒・保護者との求人情報共有の強化を図る。(令和7年度 導入決定)	
その他	・学校行事全般にわたり、生徒・保護者の満足度は非常に高く、本校学校行事の充実度合いが結果に表れる形となった。 ・「環境美化」については、数値データはもとより自由記述においても、「あまりできていない」という意見が散見された。	・教員のチームワークを高めるための対応が必要である。
改善方策	・学校行事のマナー化を解消するため、教員間で問題意識を共有し、生徒会と共により望ましい行事の在り方を模索する。 ・校内清掃活動・環境整備については、校内委員会の活性化を図るなど、今後も指導体制を強化する。	